



(社)いわふね青年会議所 広報紙

あらかうみ

21世紀の夜明け!

元旦号

2001.1.1



新潟県知事

平山征夫氏

二〇〇一年度いわふね青年会議所理事長

鈴木敏明

特集

新春対談

新世紀記念



新年のご挨拶

直前理事長

金子 三十美



新年のご挨拶

2001年度理事長

鈴木 敏明

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は(社)いわふね青年会議所の活動に、多大なるご理解ご協力を賜りましたことを先ず持って御礼申し上げます。お陰様で会員一同、昨年のスローガンに御座います通り「PURE SPIRITS」で、のびのびと精一杯ニューミレニアム幕開けのJCI活動に邁進する事が出来ました。

常磐、南陽JCIとのタイアップ事業・JINミニバスケットボール大会、高校生まちづくりフォーラム。共に、結果以上に地域の方々「関わる」プロセスを大切にしたい思い入れでの事業展開でした。この地域で「青年会議所(JCI)」の活動をもっと理解していただく為には、私達メンバー自身が「関わる」ことを積極的に考える必要があることを再認識した一年間でした。JCIは世界組織です。けれども最小単位である、ひとつひとつの「地域のJCI(LOM)」が、地域の方々に必要とされる、JCIだからこそ出来る活動を真剣に考えなければJCI組織自体の存在意義は薄れ、地域のまちづくりひとづくりに寄与することは出来ません。今後も、JCIに対する皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

この東北地域も高速交通体系の整備が進んで参りました。地方分権、広域合併の波も全国的に押し寄せております。が、インフラもシステムも活用するのは「ひと」です。単なる権限の委譲である地方分権ではなく、地域住民が自分たちのまちを自ら変えていく責任と義務を自覚した地域主権の精神が必要です。この素晴らしい魅力ある広域いわふね地域の、はつらつとした、こころ豊かな「心世紀」を築くため、今年度も青年らしく爽やかなJCI活動を心掛けたいと思います。

最後になりましたが、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

新年、そして新世紀、明けましておめでとうございます。昨年中は当(社)いわふね青年会議所の活動に、ご理解、ご協力、誠にありがとうございました。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

さて青年会議所(Junior Chamber 略称JCI)とは、「明るい豊かな社会」の実現を理想とし、次代の担い手たる責任感をもった20才から40才までの有志の集まった団体です。その理想と責任、成人たる人格をもっていれば誰でも、人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によりその居住する各地域のJCIに入会できます。活動はボランティアに基づき、資金も会員の持ち寄りにより、基本的に他からの補助を求めない独立した、中立の団体です。

50周年の歴史を刻む日本のJCI運動は、めざましい発展を続けており、現在750余りの地域で約6万人の会員が活動し、その調整機関として日本青年会議所があります。

世界に及びJCI運動の中枢は国際青年会議所であり98ヶ国約32万人が国際的な連携をもって活動しています。

JCIの事業目的は、「社会と人間の開発」であり、市民との共感をもとめ社会開発による日常活動を展開し、市民運動の先頭に立って進む団体、それがJCIです。

更に、私たちは姉妹締結を福井県の鯖江青年会議所と、海外では、韓国の東草青年会議所と結んでおり、お隣山形県の南陽青年会議所とは友好JCIの関係にあり、現在、JCI間を越えた地域間交流、地域間協力の可能性を探っております。

(社)いわふねJCIは、村上市岩船郡在住、在勤の会員(メンバー)で構成され、設立34年目をむかえます。今現在の正会員数は49名、賛助会員4名、卒業者であるOBは111名を数えます。メンバーは昨今の厳しい経済状況や新しい企業環境に対応しながら、貴重な人生の大切な時期を、仕事にJCI活動に打ち込んでいます。

いよいよ21世紀です。新世紀JCI運動の源流として、JCIが地域密着型組織として地域社会にコミットできる存在であるために、メンバー一丸となり変革に挑戦していきます。このいわふね地域は、今まで、どちらかといえば「時代の流れ」というものに乗遅れがちであることは否めませんが、新世紀は、私達JCIメンバーと共に主体的に時代を創っていくような「ふるさと」にしようではありませんか!

2001年いわふねJCIスローガン

「CHALLENGE & EVOLUTION - 挑戦し、進化しよう -」

新世紀記念
新春
対談



1965年村上市岩船三日市生まれ。(株)山木組取締役。99年(社)日本青年会議所新潟ブロック協議会 広域ネットワーク委員会委員長。2000年(社)日本青年会議所向、(社)いわふね青年会議所副理事長。2001年同第34代理事長。

鈴木 敏明
二〇〇一年度いわふねJC理事長



平山 征夫氏
新潟県知事

1944年柏崎市生まれ。横浜国大卒。日本銀行入行後、広報課長、新潟支店長、仙台支店長などを歴任。92年10月の県知事選に初当選、96年に再選、2000年に三選を果たした。

いわふねのイメージとこれからの取り組み

鈴木 「海と清流に育まれた食のふるさと」という県の「いわふね地域」へのイメージですが、これには共感する部分と物足りない部分を感じます。知事は「神林村の孫」とよくお聞きしておりますので、第二の故郷「いわふね」に対しての思い入れや知事から見た今後の岩船地域のあるべき姿をお聞かせ下さい。

知事 海と清流……この中にはもともとある物しかないんだよね、「今後の発展の材料となるものは何か」をみんなでよく話し合ったほうがいいんじゃないかな。私としては特色のある文化を大事にしていきたいこと。また何らかの仕掛けをして住んでいる人が喜んで暮らせるようにすることが大事であると思います。海と清流だけだとなかなか住民は喜んで暮らせる場所にはならないよね。(笑) いわふねに住みたくなるようなまちづくりが必要なんです。また人々の交流も大事です。観光で訪れる他地域の方とのふれあいについては、いわふねJCの皆さんもご尽力下さっている。「高速道路」や「羽越新幹線」が今後の課題となってますが、県としても実現に向けて計画しているところです。

里創プランと高速道路

知事 ただ高速道路ができれば魅力ある町に変わるわけ

「ふるさと
いわふねの未来を語る」

ではないんだよね。現在、磐越道や上信越道で困っていることがあるんですよ。というのは県が各地域に対して行っている地域おこし事業として里創プラン支援事業というものがあつたんですよ、県ははじめに新井・南頸城・東蒲原の三ヶ所を指定したんです。その後里創プランの参加地域を募り岩船地域など三ヶ所の立候補があつたわけですね。

鈴木 そうですね、岩船地域では「都岐沙羅里創プラン」として各団体、個人が地域おこしに取り組んでいます。JCのメンバーも何人か参加しています。

知事 はじめの三ヶ所はこれから高速道路が全面開通する地域ということで県が指定しました。磐越自動車道や上信越自動車道ができる前に地域ごとにとまると元気なまちを作っておこうという考えから来ていました。でも計画通りに行かないのが現実で、広域で議論すると市町村間の壁というものがとても難しく未だ準備が整っていません。磐越道の東蒲原地域についての問題は、本来の目的は遠くから来てもらって阿賀野川に下りて観光振興をやるうと思つたんですよ。それが実際（高速道路が）できちゃつたらルートからは阿賀野川が見えないし、すーっと新潟まで行つてしまふんですよ。下りなくなつてしまつて……。各市町村の壁を取り除けないまま現実になつた悪い例です。みんな自分の生活が便利になることを先に考えました。なんだよね。その点これからという岩船地域の「都岐沙羅」は自発的に立候補してきた積極性に期待しています。

す。今はまだとても小さな単位でそれぞれの特産品とかを女性が多く参加してやっていますよね。これはまあ発想はとってもおもしろいけど所詮素人の手作りっていうのがどうしてもあるから、それはプロの目で全体をコーディネートしてもらつたほうがいいですね。一定の品揃えとか商品レベルとかをしないといけない。競争の時代には生き残れないんじゃないかな。この前村上へ行ったときにその人たちの話を聞いたんだけどお互い知らないことがあるようだったね。ただみんなで議論していくうちにそこにあんな良いものがあるということが分かつてくるみたいで、これからじゃないかな、都岐沙羅は……。この都岐沙羅里創プランと高速道路とがどういふふうに関わり合ふか、丁度高速道路の開通に合つていけばおもしろいんじゃないかな。

NPO (非営利団体) 活動

鈴木 我々も高速道路の早期開通や都岐沙羅の地域おこし、いづれに対しても関心をもって協力していきたいと思つています。それといわふねJCとしては「NPO」に積極的に関わっていきたくて「NPO」に参加す

ると結構大変な部分があるんですよ。

知事 JCは「NPO」の人材バンクになり得るんじゃないかな。

鈴木 そうなんです！個人でコーディネーターなどの役に立つような仕事をしていって大きな力が必要になつたときに「いわふね青年会議所」という組織と仲間協力してもらつた方がいいですね。

知事 そうだね！やはり地域の方、特にJCなどの組織になれていない個人の方とかは一対一の関係を大事にしていかないとうまくいかないね。特に女性はとてもすごいパワーを持っています、やりだすと一番熱心です。これからの地域にとっても女性の力はとても大事だよ。

地域間連携

鈴木 地域ぐるみの広域連携については、我々JCとしても山形県の南陽JCや福島県の常磐JCとの友好関係にありまして、小学生を対象としたミニバスケット大会の開催などで交流をしております。またそういったことで知り合った他地域の仲間と、いわふねからは山へ、山形からは海へというように個人的な交流も増えていっています。我々の地域でも定住人口の増加は難しいので、交



図つていきたいと考えております。また今年は上杉家が上越から山形に移つて四〇〇年の年にあたることもあり全国の城下町青年会議所で主催する「全国城下町シンポジウム」が開催されます。いわふねJCとしても歴史・文化の交流として隣接地域との連携を深めてまいりたいと思つています。こういった関係がごく自然な形だと思つていますが、これからの隣接地域との交流・連携について知事のお考えをお聞かせ下さい。

地域資源の有効利用

知事 県としてこれから期待しているものとしては山北町を中心とした山(森林)なんです。木のある生活というのはいわふねからとても大事にしていきたいです。山北町の寒川小学校の校舎みたく木のぬくもりにも囲まれた中で教育や学校生活は、これからの二十一世紀に必要なとされる心の豊かさを育てる上でとても重要になってきますね。このような森林資源をもつと有効利用する取り組みを皆さんのような若い力とアイデアでやつていってほしいです。

鈴木 ありがとうございます。それと地元では岩船港の今後に期待する声も高まっています。

知事 陸つていふのは道路がないとつながらないけど、海は拓かれていふんだよね、どこへでもつながるし……。そういう意味では道を作らなくても交流ができるのも大きな地域資源ですね。

鈴木 JCなどが誘致してはじまつた村上国際トライアスロン大会ですが、市民ボランティアなどの力などもあり現在では「オリンピックスタンス」という規格では全国で三本の指に入る大会に成長しました。これも今となれば地域資源と言つたことになりませんが……。

知事 そうです。海や山などの自然と地元ボランティア……地域の恵みを利用した素晴らしい大会です。今後皆さんの活躍に期待しています。

いわふね青年会議所へ

鈴木 最後に我々いわふね青年会議所へメッセージをお願い致します。

知事 私の第二の故郷ですし、大事な地域です。益々若い力が活躍しないとこれからの少子高齢化の中でも地域に元気が湧いてこないです。JCに期待する部分は大きいですね。

鈴木 本日は大変ありがとうございました。次世代に責任あるJCとして、地域の発展に頑張つてまいりますので今後とも宜しくお願い致します。

知事 期待しています。頑張ってください。

メンバー紹介



鈴木 敏明
（株）山本組

理事長



金子三十美
（株）金子工務店

直前理事長



大滝 哲也
大滝自動車工業（株）

専務理事



須貝 忍
須貝忍理容室

副理事長



中村慎一郎
（株）ナカムラ自動車

副理事長



貝沼 正己
（株）新和建設

副理事長



小田 和則
（株）鈴木経営C・S

副理事長



藤井 昭弘
（株）花のふじ井

監事



姫路 敏
姫新工業（株）

監事

国際交流委員会

携帯電話、メールなどといった、デジタル化の新しい方法が生まれ普及して大変便利になってきています。しかし、こんな時代の今こそ本当の意味での【人と人との交流】を考える時期ではないかと思えます。当委員会では、①韓国東草JCとの交流や地元外国人との交流で国際感覚を高める。②地元地域とのスポーツ交流で青少年育成を図る。このような活動を積極的にを行い、人と人とを結びつける事業展開をしていきたいと思えます。



委員長 鈴木 洋司
鈴木建具製作所



副委員長 本間 広樹
（株）本間建設



加藤 博
（株）加藤造船



岡崎 明広
（株）日本旅行 村上支店



齋藤 敬子
（株）サイケンレンタル



永田 強
（株）永徳酒販



遠山 信也
（株）やま信



渋谷 隆
（株）渋谷工務店



35周年準備室



室長 田村 崇行
（株）ヤマギン

諸先輩方の熱い志で1967年に村上青年会議所として産声を上げました。1992年に（株）いわふね青年会議所となり、そして日韓共同で開催される2002年ワールドカップの年に、記念すべき35周年を迎えます。そこで35周年準備室としてやるべきことを計画、行動し来るべき2002年、35周年での運営のお役に立ちたいと思えます。

事務局

21世紀を迎え社会の変化が著しい中、近年は特に「情報」の流れの変化が激しく、私たちの生活にも少なからず影響を及ぼしています。このような流れの中、近年会員の情報交換の場としてのメーリングリストの利用や、会の活動報告の場としてのホームページの作成が行われてきました。本年度事務局では、このような電子媒体の活用をより推進させ会員相互の連絡を円滑化し、会のスムーズな運営を心がけ事務局員一丸となり取り組む所存であります。



事務局長 鷲尾 辰弥
（株）鷲尾組



事務局次長 斎藤 健
朝日鋪道（株）



小池 慶彦
村上信用金庫



鈴木 憲一
中安業局



吉村 文和
（株）吉村電工



太田 成巳
礪石の石光



渡辺 明
（株）わら竹

地域活性委員会

環境・教育・福祉・少子高齢化・交通体系等の諸問題が社会の歪の原因になっているものと考えられます。改善策としてNPO（非営利活動法人）の活動の場が急速に広がることも期待されています。当委員会では、この地域でのNPOの可能性を研究・提案するとともに、もう一点、ドクター（自治体財務診断シミュレーションソフト）の有効活用及び実践の2本柱に力を入れていきたいと思えます。又、行政との交流も深めて行きま



委員長 貝沼 栄司
貝沼総合保険



副委員長 小野 力
（株）村上塗装工業



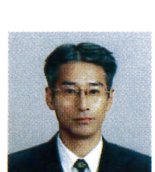
副委員長 木村 友紀
（株）木村組



小野 徹
合資 ほんぼ



日下 賢也
村上印刷（株）



中山 和久
（株）中山商会



安藤 成
ホームサービス ひまわり



今井 伸一
（株）大進建設



佐藤 淑晴
大毎興業（株）

経営開発委員会

情報化や国際化の激動時代の中、未だ活力を取り戻せずにいる日本経済の現状ですが、企業が安定し生活が安定すれば、活力は回復していきます。当委員会は、事業価値・社会価値・人間価値のバランスをとりながら企業活動していく「ソシオビジネス（本業を通じて社会貢献していく事業）」の研究と、ITS（道路の情報化）の研究、農業問題（食糧問題）を取り上げ追究し、これからの企業づくりに役に立てるよう進めていきたいと思えます。



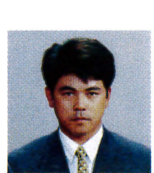
委員長 長浜 一樹
（株）日栄特基



副委員長 松田 郁子
朝日物流（株）



高橋 透
メガネの愛眼堂 村上店



佐藤 祐二
（株）サト一重機



大田 文美
（株）大田電工



大越 和広
旭電工（株）



土谷 孔秀
静雲荘



渡辺 衛
（株）ますや旅館

LOM開発委員会

40歳で卒業して行くJCのシステムのなかで、いわふねJCが地域の皆さんに認知され、アクティブな活動を続けて行くには会員の意識の向上と更なる会員数拡大は不可欠です。LOM開発委員会では①会員拡大、②既存メンバーの意識向上と会員拡大の為に充実したオリエンテーションの実施、③地域の皆さんやメンバー自身とその家族にJCを理解して頂く為の中身の濃い外部報・内部報の発行をメインの事業として活動していきます。



委員長 森田 弘樹
ソニー生命保険（株）



副委員長 丹 大輔
（株）丸 橋



佐藤 学
（株）フォト・スタンプ新潟



木村 浩一
（株）宮 作



村山 智美
（株）村 恭



小野寺秀樹
（株）村電リース



竹内 歩
（株）千渡里

活動報告



会社ゲーム 4月15日~16日

インストラクターとして社団法人雪国青年会議所OBの高村秀夫先輩、アシスタントに社団法人雪国青年会議所 上村政司君、社団法人雪国青年会議所 小林 忍君をお呼びし、「ゲーム盤を使っての製造業経営シミュレーションゲーム」を行いました。ゲームをきっかけとして会社経営の運営研修はもちろんのこと、話し合い、分かり合う事で仲間意識も深まったと思います。

高校生まちづくりフォーラム 8月5日

村上市の岩船地域広域情報センターにて「高校生まちづくりフォーラム」を開催しました。このフォーラムは、21世紀を担う高校生に「まちづくり」という視点から地域を考えてもらい、それをこれからのまちづくりに反映すると共に、将来、地域づくり・まちづくりに積極的に参加してもらえるような芽を育てる目的で、岩船広域圏の高校5校を対象に行われました。各高校で「まちづくり」について、まちづくり委員会メンバーがファシリテーターとなりワークショップを何度も行いました。その熱い議論をパワーポイントでまとめ、当日、プレゼンテーションとフリーディスカッションで意見交換を行いました。



JC会員募集中

JCの3信条は、奉仕・修練・友情です。20歳~40歳までの青年が集まっているいろいろな活動をしています。

昨年はいわふね広域での各イベントへの協力の他、高校生フォーラム、行政懇談会、JINミニバスケット大会、友好JCとの交流、さまざまな講演会、会社ゲーム等の研修を行いました。

この地域に密着して「明るい豊かな社会」を創り上げることが目標としています。また、会員相互に協力し合ったり、議論し合ったり、いっしょに苦労したりしながら一生涯の仲間作りをしています。

本当に楽しくて自己研鑽のできる場です。こないわふねJCに興味を持った方、いっしょに活動したい方は是非ご連絡下さい。お待ちしております。



お問い合わせ

●事務局

村上商工会議所内事務局 岡田
TEL 0254-53-4257

●担当委員会

LOM開発委員会 森田
TEL 090-3083-5271

(社)日本青年会議所出向にあたって

田村 崇行

(社)日本青年会議所 元気あふれる社会起業家育成グループアントレプレナー挑戦委員会に小委員会幹事として出向しております。(社)日本青年会議所とは東京都に所在地を置く国家青年会議所で全国の青年会議所の総合調整機関であり、加えて国家的な問題に対して提言、運動を起こしています。

2001年度会頭、土谷龍一郎君は「新世紀へのCOMMITMENT — 情熱を胸に 今 新世紀への源流とならん — 企業と家庭の力を源とするJayceeとして確固たる自己を確立し組織の進化を求め新たな日本の歴史を創る」を基本理念とし、5つの基本方針があり、その一つとして「企業の力を源とする新世紀の社会起業家育成」を目的とした私も「元気あふれる社会起業家育成グループ」があります。

私どものグループではいくつかのアプローチで社会起業家育成に取り組み、全員がこの社会起業家としての視点を学び、対外的にも発信していきます。その一翼を担い、情報の集積、実践という形で全国のメンバーに発信するのが私どもアントレプレナー挑戦委員会です。21世紀の中小企業の進む道は、新産業創造が必要不可欠です。ベンチャービジネスフェアや、ホームページ、実践という形で全国のメンバーにも発信していきます。

また、本年(社)日本青年会議所は創立50周年を迎えます。そのような喜ばしい記念すべき年に出向できますことを感謝し、情報を(社)いわふね青年会議所に還元し、些少でも地域の発展、ひとつづくり、まちづくりに寄与できれば幸いです。